

平成 29 年度  
(2017 年度)

## 事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

# 平成 29 年度 事業報告

## I. [事業の状況]

### 1. 国際映画祭事業

- 名 称： 第 30 回東京国際映画祭
- 主 催： 公益財団法人ユニジャパン  
(第 30 回東京国際映画祭実行委員会)
- 共 催： 国際交流基金アジアセンター (アジア映画交流事業)  
東京都 (コンペティション部門、ユース部門)
- 期 間： 平成 29 年 10 月 25 日 (水) ~平成 29 年 11 月 3 日 (金・祝)
- 企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの未来、  
CROSSCUT ASIA #04 ネクスト! 東南アジア、日本映画スプラッシュ、  
ワールド・フォーカス、JAPAN NOW、日本映画クラシックス、ユース  
映画監督 原恵一の世界、歌舞伎座スペシャルナイト、TIFF マスタークラス、  
みなと上映会、TIFFCOM2017、第 14 回文化庁映画週間 他
- 会 場： 六本木ヒルズ、EX シアター六本木 (以上、港区) をメイン会場とし、その他都内  
劇場及び施設・ホールを使用
- 後 援： 総務省／外務省／経済産業省／観光庁／港区／独立行政法人日本貿易振興機構／  
東京国立近代美術館フィルムセンター／  
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団／  
一般社団法人日本経済団体連合会／東京商工会議所／  
一般社団法人日本映画製作者連盟／一般社団法人映画産業団体連合会／  
一般社団法人外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) ／  
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／  
特定非営利活動法人映像産業振興機構／一般社団法人日本映像ソフト協会／  
一般財団法人角川文化振興財団／一般財団法人デジタルコンテンツ協会／  
一般社団法人デジタルメディア協会
- 支 援： 文化庁／経済産業省
- オフィシャルパートナー： 木下グループ／日本コカ・コーラ株式会社／アメリカン航空
- プレミアムスポンサー： キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／  
株式会社 WOWOW／アウディジャパン株式会社
- スポンサー： 大和証券グループ／ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社／  
株式会社スター・チャンネル／テタンジェ／ソニーPCL 株式会社／  
セイコーホールディングス株式会社／株式会社 IMAGICA／株式会社 TSUTAYA
- コーポレートパートナー： 松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA／  
日活株式会社／森ビル株式会社／TOHO シネマズ株式会社／  
一般社団法人映画演劇文化協会

メディアパートナー： 株式会社朝日新聞社／株式会社 J-WAVE／株式会社 Inter FM／  
日本映画放送株式会社／株式会社テレビ朝日／  
松竹ブロードキャスティング株式会社／株式会社ジャパン タイムズ／  
ダウ・ジョーンズ・ジャパン株式会社／ヤフー株式会社／株式会社 GYAO／  
LINE 株式会社

フェスティバルパートナー： ゲッティイメージズ ジャパン株式会社／株式会社クララオンライン／  
株式会社フルノシステムズ／株式会社一蔵／スターフェスティバル株式会社

## 【開催概要】

第30回東京国際映画祭は、平成29年10月25日（水）から11月3日（金・祝）まで10日間、六本木ヒルズ、及び、EXシアター六本木をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また14年目を迎えたマーケット部門（TIFFCOM 2017）は、昨年に引き続き合同開催の第14回東京国際ミュージックマーケット（14<sup>th</sup> TIMM）、及び、東京国際アニメ祭2017秋（TIAF2017Autumn）と共に「JAPAN Content Showcase」として展開、新たに池袋（特）で開催され、好評裡に終了することが出来た。

久松猛朗フェスティバルディレクターを新たに迎え、第30回という節目になる本年度の映画祭は、引き続き一定レベルの委託事業予算を確保できたため、祝祭感の醸成、認知度・知名度の更なる向上、上映部門数・上映本数増による鑑賞機会の拡大、動員数の増を図った。具体的には、昨年に引き続き、六本木ヒルズとEXシアター六本木を活用、映画祭全体のコンパクトで効果的な運営を狙った。上映部門としては、従来の部門をきちんと押さえつつ、日本映画を代表する作品を海外に紹介する「JAPAN NOW」では特集として、日本を代表する4人の女優を取り上げる取り組みで華やかさを演出し、また4年目を迎える国際交流基金との共催企画「CROSSCUT ASIA #04 ネクスト！東南アジア」、ジャパニアニメーション特集「映画監督 原恵一の世界」といった数多くの企画を実施した。

また、30回という記念の回でもあるため、映画祭全体を盛り上げるための施策として、クラウドファンディングの実施、野外上映では過去のTIFF上映作品から選出した作品群をCinema Arena30と銘打ち連日六本木ヒルズアリーナで上映し、また、6スクリーン同時のAN企画「ミッドナイト・フィルム・フェス」の実施や、トリビュート・トゥ・ミュージカルの実施等を行い、より広い映画ファンへの映画祭の認知に努めた。そして、若い映画ファン、若い映画製作者の育成を目的としたユース部門ではTIFFティーンズ映画教室2017という新たな取り組みも行き、映画祭を良い形で拡大する事が出来、評価も得た。

その結果、今映画祭の自主企画は40企画で、動員数は201,790人。前年対比は111.5%と予算的にはむしろ厳しい中、見事V字回復する事が出来た、これは限られた上映会場数の中での上映の工夫、深夜帯での上映、連日のアリーナでの上映ほかの実施、全ての取り組みが合わさったの結果という事が出来る。上映作品数は（短編を含め）233本。

オープニングセレモニーは、10月25日（水）にEXシアター六本木にて開催された。冒頭、来賓の世耕弘成経済産業大臣、及び、林芳正文部科学大臣による祝辞をいただき、その後、来賓紹介、そして、映画祭アンバサダー橋本環奈と司会の笠井信輔による映画祭企画概要の紹介を行った後、JAPAN NOW部門の特集である4女優（安藤サクラ、蒼井優、満島ひかり、宮崎あおい）

が登壇、会場は大いに華やいだ。次に、オープニングスペシャル「空海 KU-KAI」のフッテージ映像の上映があり、染谷将太、ホアン・シュアンら日中キャストが登壇し会場を盛り上げた。引き続き、アジアの未来部門、日本映画スプラッシュ部門の紹介、そして、コンペティション部門の作品介绍、トミー・リー・ジョーンズ国際審査委員長による挨拶が行われた。最後に、今年のオープニング作品『鋼の錬金術師』より山田涼介、本田翼、監督・曾利文彦等呼び込んだ後に舞台挨拶が行われ、盛大で大変華やかなセレモニーとなった。

その後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、オープニング・パーティーが行われた。パーティー開始後、オープニング作品の上映も TOHO シネマズ六本木ヒルズで行った。

クロージングセレモニー（授賞式）は、11月3日（金・祝）にEXシアター六本木で開催された。授賞式では、冒頭、今年初の“東京ジュエストーン賞”受賞者4名のうち、女優の石橋静河氏、ダフネ・ロー氏が登壇、贈賞がなされ、大いに華やいだ。その後、「日本映画スプラッシュ」部門、「アジアの未来」部門の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京グランプリ」はセミフ・カプランオール監督作品『グレイン』に、審査員特別賞はシルヴィア・ルーツィ、ルカ・ベッリーノ共同監督の『ナポリ、輝きの陰で』に贈られた。また、「アジアの未来 作品賞」は藤元明緒監督の『僕の帰る場所』に、「日本映画スプラッシュ 作品賞」は戸田ひかる監督の『Of Love and Law』に贈られた。そして、昨年までの「WOWOW 賞」から新たに最優秀脚本賞 Presented by WOWOW にはチーム・ニッキ監督作品『ペット安楽死請負人』、「アジアの未来 国際交流基金アジアセンター特別賞」はダブル受賞になる『僕の帰る場所』（監督：藤元明緒）が選ばれた。その後、クロージング作品『不都合な真実 2：放置された地球』のゲストとして、アル・ゴア氏が登壇、都知事賞の贈呈でも登壇された小池百合子都知事とのエール交換も行われた後、作品の上映が行われた。終映後、アカデミーヒルズ49階タワーホールに会場を移してクロージングパーティーを開催、審査委員メンバー、各賞受賞者等、多数の方が参加し、最後の夜を楽しんだ。

## [自主企画]

### (1) コンペティション （共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2017年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人1名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京グランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、11月3日の閉会式会場で発表された。東京グランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千米ドルが副賞として贈られた。東京グランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。そして、昨年までのWOWOW賞の代わりとして、最優秀脚本賞 Presented by WOWOW が新設され、1万米ドルが1作品に贈られた。

- ・東京グランプリ：『グレイン』（監督：セミフ・カプランオール）
- ・審査員特別賞：『ナポリ、輝きの陰で』（監督：シルヴィア・ルーツィ、ルカ・ベッリーノ）
- ・最優秀監督賞：エドモンド・ヨウ（作品：『アケラットーロヒンギヤの祈り』）
- ・最優秀女優賞：アデリーヌ・デルミー（作品：『マリリンヌ』）
- ・最優秀男優賞：ドアン・イーホン（作品：『迫り来る嵐』）
- ・最優秀芸術貢献賞：『迫り来る嵐』（監督：ドン・ユエ）
- ・最優秀脚本賞 Presented by WOWOW：『ペット安楽死請負人』（監督：チーム・ニッキ）
- ・観客賞：『勝手にふるえてろ』（監督：大九明子）

上映本数 15 作品 動員数 13,609 人

## （２）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の 1 本目から 3 本目までの長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により 1 作品が選ばれ、賞金 1 万米ドルが贈られた。また、昨年につき、今年も国際交流基金アジアセンターの支援のもと、「国際交流基金アジアセンター特別賞」が国際交流基金アジアセンター特別賞審査委員により 1 名が選ばれた。

- ・作品賞：『僕の帰る場所』（監督：藤元明緒）
- ・国際交流基金アジアセンター特別賞：藤元明緒監督（『僕の帰る場所』）

上映本数 10 作品 動員数 3,940 人

## （３）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100 万円が贈られた。

作品賞：『Of Love and Law』（監督：戸田ひかる）

上映本数 9 作品 動員数 3,213 人

## （４）特別招待作品

国内未公開の主な話題作品を 18 本厳選し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に貢献した。

上映本数 18 作品 動員数 9,304 人

## （５）特別上映

国内未公開の話題作品を 5 本選定し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に貢献した。

上映本数 5 作品 動員数 861 人

#### (6) ワールド・フォーカス

世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。尚、今年台北駐日経済文化代表処の支援により「台湾電影ルネッサンス 2017」のミニ企画も実施。

上映本数 24 作品 動員数 11,512 人

#### (7) 「CROSSCUT ASIA #04 ネクスト! 東南アジア」

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭のコラボレーション・シリーズ第4弾。ASEAN 設立 50 周年を記念し、各国の巨匠監督や有名俳優から“激推し”作品を挙げていただき、東南アジアの新しいラインアップを上映。大変な好評を得た。

上映本数 13 作品 動員数 2,527 人

#### (8) 「JAPAN NOW」

現在の日本映画を支える代表的な監督の作品を選定し、海外に対して今の日本映画が持つ大きな可能性と意欲を発信する事を目的とした部門。代表作7本に加え、今の日本を代表する4女優(安藤サクラ、蒼井優、満島ひかり、宮崎あおい)の特集上映として1人につき2本上映。連日、ゲストによるQ&Aが行われ、大変好評を博した。

上映本数 15 作品 動員数 3,691 人

#### (9) 「日本映画クラシックス」

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。「影武者」4K デジタルリマスター版を始め、5作品を上映。往年のファンから新しい映画ファン層まで幅広く集客した。

上映本数 4 作品 動員数 751 人

#### (10) ユース部門

ユース部門「TIFF ティーンズ」は中学生以上が対象、映画を通してティーンズが一步前に進む原動力を得ることを願い、また、未来の映像作家や映画ファンの創出につながることを目指した。会期中、3本の作品を上映。

ユース部門「TIFF チルドレン」では、会期前の夏休みの時期に、新設の「TIFF ティーンズ映画教室 2017」を実施。中学生 23 人による9日間の映画制作教室を行った。

期間中は、チャップリン、キートンのサイレント作品の上映、及び、上記、完成作品の披露上映ほかを行い、大変、意義深い取り組みとなった。

上映本数 15 本 動員数 2,253 人

#### (12) 「映画監督 原恵一監督の世界」

監督デビュー30周年を迎えた映画監督・原恵一、初の大規模特集上映を行った。監督に毎回登場して頂き、作品に関するゲストとの談話も大いに盛り上がった。

上映本数 9 作品 動員数 1,353 人

### (13) 歌舞伎座スペシャルナイト

第4回目の今年は、歌舞伎俳優・市川海老蔵さんによる歌舞伎舞踊「男伊達花廊」の上演と、第7回カンヌ映画祭でグランプリを受賞した、名匠・衣笠貞之助監督の『地獄門[4K デジタル復元版]』を上映、海外からのゲストも多数参加し、大変高い評価を得た。

10月26日(木) 歌舞伎座 動員数 988名

### (14) 野外上映 Cinema Arena 30

第30回を記念して、東京国際映画祭の過去作品約6000本の中から、東京グランプリ受賞作、オープニング作品、クロージング作品などからセレクトした映画を会期中の六本木ヒルズアリーナにて連日上映。また、飲食店等の出店もあり、会場は連日大いに盛り上がった。

上映本数 28本 動員数 2,536人

### (15) Tower Light Cinema 映画の話をしにきませんか？

今年は「みなと区民まつり」(10月7日、8日)とのコラボが実現、まつりの後に、同一会場である港区立芝公園にて大スクリーンを設置して上映。東京の象徴ともいえる東京タワーを背景に上映がなされ、大変、良い雰囲気の上映となった。

上映本数 3本 動員数 607名

### (16) 『ゴジラ』シネマ・コンサート

第30回を記念し、会期中の10月31日に東京国際フォーラムホールCにて、東京国際映画祭初のシネマ・コンサートを開催。日本映画の金字塔『ゴジラ』をフルオーケストラによる演奏とともに全編上映。上映に先立ち、平成ゴジラシリーズのプロデューサー富山省吾氏と『シン・ゴジラ』の樋口真嗣監督、音楽プロデューサーの岩瀬政雄氏によるスペシャルトークショーも行った。

上映本数 1本 動員数 1,050人

### (17) スティーヴン・ソダーバーグの世界 supported by アメリカン航空

アメリカン航空の支援により新設された、アメリカ大陸の映画人にフォーカスした特集上映。今回は、アメリカを代表する監督のひとりであるスティーヴン・ソダーバーグ監督を取り上げた。

上映本数 3本 動員数 449人

### (18) ミッドナイト・フィルム・フェス！

ハロウィン間近の週末10月28日(土)の夜に、様々なジャンルのオールナイト上映を、6スクリーン同時に行い、フェス感を盛り上げた。

上映本数 23本 動員数 1,048人

### (19) トリビュート・トゥ・ミュージカル supported by スターチャンネル

観る人の心に深い感動を刻み込むミュージカル映画を特集。上映後には魅力的なゲストによるトークも行った。

上映本数 6本 動員数 695人

### (20) TIFF マスタークラス

本年度のSAMURAI 賞受賞者である音楽家・坂本龍一氏を筆頭に、河瀬直美監督、曾利文彦監督、ブリランテ・メンドーサ監督という国際的に著名な監督を連日招き、若い映画ファンや若手映画作家に向けてセミナー形式のトークイベントを実施。

動員数 900名

### [共催・提携企画]

#### (1) ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション

ジョージ・イーストマン博物館が復元した貴重な8作品を35ミリフィルムで上映。

10月28日(土)～11月5日(日) 東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール

上映本数 8作品 動員数 1,454人

#### (2) 第14回文化庁映画週間

##### ①平成29年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてきた功労者を顕彰。

会期：10月25日(水) 場所：グランドハイアット東京

##### ②平成29年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞を受賞した3作品を上映すると共に、各作品の監督を招きQ&Aを行った。

会期：10月28日(土) 場所：神楽座

##### ②シンポジウム—MOVIE CAMPUS—

第一部は映画監督等を招いて邦画クラシックスについて討議し、第二部は関連作品を上映。

会期：10月29日(日) 場所：神楽座

#### (3) 映像シンポジウム

撮影監督・浜田毅氏による映画製作セミナー、および、キヤノン製品の体験会を実施。キヤノンマーケティングジャパン株式会社のプレゼンを実施。

会期：10月27日(金) 場所：神楽座

#### (4) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム

10月30日(月)

小路紘史監督作品『ケンとカズ』上映に続き、小路監督とエドモンド・ヨウ監督との対談を行った。

#### (5) みなと上映会

10月28日(土)

名作クラシック映画の上映、親子向けのアニメーションの上映を実施した。

- (6) **WOWOW 映画工房 300 回 & 『君の名は。』 初放送記念、新海誠オールナイト**  
in 東京国際映画祭  
10月28日(土)  
『映画の妖精 フィルとムー』のワールドプレミアを含むトークショー&上映会を実施。
- (7) **特別提携企画 「PFF アワード 2017」 グランプリ受賞作品上映** 11月3日(金・祝)  
PFF アワード 2017 グランプリ作品『わたしたちの家』の上映、および、Q&A を実施。
- (8) **「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2017」作品上映** 10月31日(火)  
SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2017 の受賞作品『三尺魂』が上映された。
- (9) **BS10 スターチャンネル 映画アカデミー：映画予告編製作者による**  
映画の“見方”“楽しみ方”  
10月26日(木)  
現役の映画予告編製作者を講師に迎え、映画鑑賞の楽しみ方の神髄に迫るトークイベントを行った。
- (10) **クラシック映画のデジタル修復～『地獄門』を題材に～** 10月27日(金)  
クラシック映画のデジタル修復について実演を交え解説し、問題点や今後についても言及。  
場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム
- (11) **京都フィルムメーカーズラボ** 10月28日(土)～11月3日(金・祝)  
選抜された国内外の若手映像作家を対象に、TIFF 審査員他を迎えて8つのセミナーを開催。  
場所：京都文化博物館、東映京都撮影所ほか
- (12) **世界最大のアニメーション映画祭「アヌシー国際アニメーション映画祭」紹介セミナー**  
10月30日(月)  
映画祭と見本市のトップと日本代表による説明、モデレーターを交えた Q&A も盛況のうちに終了。  
場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム
- (13) **MPA セミナー** 10月27日(金)  
海外のオンライン著作権侵害対策の成功例を共有した。  
場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム
- (14) **MPTE AWARDS 2017** 11月1日(水)  
映像製作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。  
場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

- (15) 映文連アワード2017 11月27日(月)～11月29日(水)  
表彰式ではグランプリを始め、全受賞者に賞状とトロフィーを授与。上映会では受賞作品 31本を上映。  
場所：国立新美術館講堂（表彰式）、ユーロライブ（上映会）
- (16) SKIP シティ国際Dシネマ映画祭2017 7月15日(土)～23日(日)  
今年で14回目となるSKIP シティ国際Dシネマ映画祭が埼玉県川口市で開催された。  
場所：SKIP シティ映像ホールほか
- (17) 第39回 PFF (ぴあフィルムフェスティバル) 9月16日(土)～9月29日(金)  
「PFF アワード2017」「PFF スカラシップ」上映、上映時間の長い映画特集等を展開。  
場所：東京国立近代美術館フィルムセンター
- (18) 第10回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月15日(金)～9月18日(月)  
小松政夫へコメディ栄誉賞を授与。特別招待作品やコンペティション、企画上映など実施。  
場所：上野恩賜公園野外ステージほか
- (19) キネコ国際映画祭2017 11月2日(木)～6日(月)  
25周年特別企画として「ドイツ・フォーカス」を開催。来場者数は初の13万人越えを達成。  
場所：109 シネマズ二子玉川ほか
- (20) 独立映画鍋シンポジウム「集まれ学生！先輩に聞く 映画業界本音ガイダンス2017～現場ってホントはどんなところ？～」 10月30日(月)  
質疑応答のみの構成、対話をすることで映画業界を目指す学生達の不安に向き合った。  
場所：ランディック六本木5F
- (21) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア2017 秋の上映会 10月16日(月)～22日(日)  
映画祭受賞作品など45作品を上映、黒沢明監督のワークショップも。  
場所：アンダーズ東京／東京都写真美術館
- (22) 第11回田辺・弁慶映画祭 11月10日(金)～11月12日(日)  
コンペティション作品、招待作品等、計21本を上映。  
場所：紀南文化会館

### (23) 2017 東京/沖縄・中国映画週間

10月20日(金)～26日(木)／28日(土)～11月2日(木)

今年は中国の最新映画11本を東京と沖縄で上映、ゴールドクレイン賞の第二回授賞式を行った。

場所：TOHO シネマズシャンテほか

### (24) コリアン・シネマ・ウィーク 2017

10月26日(木)～28日(土)／30日(月)～11月1日(水)

最新の韓国映画の上映とゲストによるティーチインなどを通じて韓国映画の魅力を広く紹介し、好評を得た。

場所：韓国文化院ハンマダンホール

### (25) 第14回ラテンビート映画祭

10月5日(木)～11月5日(日)

『ドス・オリエンタレス』では上映後、生演奏を披露し、大いに盛り上がった。

場所：新宿バルト9ほか

### (26) 東京台湾未来映画週間

10月22日(日)～23日(月)

35本の台湾作品を上映

場所：台北駐日経済文化代表処・台湾文化センター

### [顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画スプラッシュ 作品賞）。

### [運営]

#### ① 自主企画の実施

本年度は、新規部門も含めた以下の部門（「コンペティション」「アジアの未来」「日本映画スプラッシュ」「特別招待作品」「ワールド・フォーカス」「JAPAN NOW」「TIFF ティーンズ」「TIFF チルドレン」他）を実施した。

#### ② 上映会場、各種会場

六本木地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）

EX シアター六本木（1スクリーン）

歌舞伎座、東京国際フォーラムホールC

・その他の会場（提携企画等を上映、実施）：

国立近代美術館フィルムセンター大ホール、神楽座、港区立芝公園、ほか

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニング・レセプションの会場として使用。

「森タワー」：映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、  
各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：Tokyo Film プラザとして使用。

「ヒルズカフェ」：Tokyo Film Lounge として使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」：Tokyo Film Arena として連日、各種イベントの実施に使用。

### ③ 入場料金

○オープニング／クロージング	一般：2,500円	学生前売・当日：2,000円
○特別招待作品	一般：1,800円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○特別上映（「果し合い」）	一般：1,300円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○特別上映（上記作品以外）	一般：1,800円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○コンペティション	一般：1,500円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○東京グランプリ受賞作品	一般：1,500円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○アジアの未来、日本映画スプラッシュ、CROSSCUT ASIA、観客賞受賞作品	一般：1,500円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○ワールド・フォーカス	一般：1,500円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○JAPAN NOW（『三度目の殺人』『花筐／HANAGATAMI』）	一般：1,800円	学生前売：1,500円 学生当日：500円
○JAPAN NOW（上記以外の作品）	一般：1,300円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○日本映画クラシックス	一般：1,300円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○ユース（チルドレン／ティーンズ／映画教室）	一般：1,300円	学生前売・当日：500円
○みなと上映会、監督協会上映、PFF アワード作品、SKIP シティ作品	一般：1,300円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○映画監督・原恵一の世界	一般：1,300円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○ステイーヴン・ソダーバーグの世界、トリビュート・トゥ・ミュージカル	一般：1,300円	学生前売：1,000円 学生当日：500円
○ミッドナイト・フィルム・フェス！	一般：3,500円	学生前売・当日：3,500円
○WOWOW 映画工房オールナイト上映	一般：4,500円	学生前売・当日：4,500円
○日本映画スプラッシュ・オールナイト上映	一般：5,000円	学生前売・当日：5,000円
○歌舞伎座スペシャルナイト	特A席：12,500円	A席：10,000円 B席：7,500円
○『ゴジラ』フィルムコンサート	S席：9,800円	A席：5,000円

### ④ 会期中のイベント

（Tokyo Film Arena 六本木ヒルズ アリーナイベント）

○オープニング・イベント：10月25日（水）

レッドカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

○デイリーイベント 10月26日（木）～11月3日（金・祝）

- ・ Cinema Arena30 連日、映画を上映
- ・ 『写真甲子園 0.5 秒の夏』 上映記念スペシャルトーク&ライブ
- ・ WOWOW と GYAO の新番組「僕声」製作決定記念声優トークイベント
- ・ ポケモンアニメ・映画 20 周年記念特別ステージ
- ・ プレミアムフライデーハロウィンパーティー in 東京国際映画祭
- ・ 『Mr.Long／ミスター・ロン』 イベント 上映記念スペシャルトーク  
(Tokyo Film プラザ)

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」を Tokyo Film プラザと称して、一般来場者の寛ぎスペースとして演出した。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。インフォメーションブース、チケットブース、キッチンカーを設置、サイン会等も活発に行われた。アメリカン航空による乗機体験コーナーも大変好評であった。

#### ⑤ ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらおう試みも実施した。

#### ⑥ オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、トートバッグを販売した。

#### ⑦ クラウドファンディング

本年度より身近な映画祭でありたいという思いから、クラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。

### 【広報活動】

#### ① メディア登録者数

国内メディア：1346 名 海外メディア 862 名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスクミ対応はすべてバイリンガル対応を実施

#### ② 国内宣伝パブリシティ

露出数：18,308 TV 媒体広告換算値：21 億 8962 万 1313 円

テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など

#### ③ 海外宣伝パブリシティ 露出数：8,021

アジア地域からのプレスの割合増（全体の 65%）特に中華圏からの取材が増加傾向

#### ④ 記者会見

○ラインナップ発表会見 2017 年 9 月 26 日 六本木ヒルズタワーホール

○会期中のコンペティション部門記者会見 TOHO シネマズ劇場内

○受賞者記者会見 2017 年 11 月 3 日 EX シアター カフェ

- ⑤ 国内宣伝広告 ・ ・ ・ ・ 「朝日新聞」紙上、InterFM897 スポット、SNS 広告
- ⑥ 海外宣伝広告 ・ ・ The Wall Street Journal、The Japan Times/ The New York Times  
Variety、Screen International、The Hollywood Reporter 他
- ⑦ 海外プレス招聘 ・ ・ 27 カ国 ・ 地域より 56 名のジャーナリストを招聘
- ⑧ 宣材物
- ⑨ 予告編 ・ ・ ・ ・ ・ 2017 年 9 月 16 日より首都圏各劇場にて上映  
メインビジュアル ・ ・ 蜷川実花氏の写真を採用し例年以上に多彩な形にて展開  
紙媒体 ・ ・ ・ ・ ・ プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成
- ⑩ 公式 WEB、SNS の展開  
SNS 展開には特に力を入れており、新たに専門会社に委託した他、海外専門の SNS 担当を事務局内に配置。媒体の特性に合わせて戦略的に国内外へと発信。  
<各 SNS フォロワー数>  
Twitter : 43,125      Facebook : 19,260  
LINE : 18,729      Instagram : 4,000
- ⑪ Cyber TIFF ・ ・ 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。  
公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

会期前の 10 月 24 日 (火) より最終日の 11 月 3 日 (金・祝) まで、六本木ヒルズ内の大型広告スペースにおいて、オープニング・クロージング作品の大型ビジュアルや映画祭ロゴ、また映画祭と各作品のポスター等を掲出。会場を華やかに盛り上げた。

- ① 地下鉄通路 地下鉄コンコースコルトン、地下鉄コンコースシート
- ② メトロハット 内周バナー、外周シート、エスカレーター下柱巻き・コルトン、メトロハット・ビジョン
- ③ 66 プラザ 水景、ポスターボード
- ④ 大屋根プラザ 吊り下げバナー、台形柱シート、角柱シート、
- ⑤ TOHO シネマズ エントランスバナー、エントランス階段シート、館内バナー
- ⑥ ヒルズカフェ 外装シート、カフェ前台形柱シート
- ⑦ アリーナ ガラス柱シート
- ⑧ けやき坂 歩道バナー

(六本木地区内の広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10 月 1 日 (日) から 28 日 (土) の 28 日間の長期に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 150 枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 1,525 枚

- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 10,500 枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 1,542 枚
- ⑤ 都バス全車内 チラシ設置 14,570 枚

#### [東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・ 港区、麻布警察署、麻布消防署、東京地下鉄株式会社、東京商工会議所、森ビル株式会社、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。第 30 回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

○プレイベント上映会：区民を対象とした第 29 回受賞作品等の上映回を開催

2017 年 9 月 30 日（土）／10 月 1 日（日）

赤坂区民センター区民ホール（入場者数 841 名）

○みなと上映会：区民を対象にしたクラシック作品、アニメーション上映会の開催

2017 年 10 月 28 日（土）

TOHO シネマズ六本木ヒルズ（入場者数 151 名）

○観客賞：観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞（賞金 1 万米ドル）

贈賞 2017 年 11 月 3 日（金・祝） クロージングセレモニー内

受賞作品上映会 2017 年 11 月 3 日（金・祝）

TOHO シネマズ六本木ヒルズ（入場者数 367 名）

受賞作品『勝手にふるえてろ』

登壇者 大九明子監督

○街頭フラッグの掲出：けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、材木町商店会にて

合計 230 枚

2016 年 10 月 14 日（土）～11 月 3 日（金・祝）

○みなとクリーンアップ：六本木ヒルズ会場、六本木駅、麻布十番駅周辺と会場までの道路沿いの清掃の予定であったが雨天のためセレモニーのみを開催した。

2017 年 10 月 14 日（土） 午前 9 時 30 分受付開始

○みなと区民まつり：増上寺エリアのテントにおいて東京国際映画祭の PR 活動を行った。

2017 年 10 月 7 日（土）／10 月 8 日（日）

○告知記事掲載：港区の Kiss ポート誌 8 月号にプレイベント募集、9 月号にみなとクリーンアップ募集記事、10 月号にみなと上映会、観客賞募集記事を掲載し、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計 15 万枚を配布した。

## 2. TIFFCOM 開催事業

### 「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の製作運営

#### ■ TIFFCOM 2017 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第30回東京国際映画祭
- ③ 同時開催： 第14回東京国際ミュージックマーケット（14<sup>th</sup> TIMM）※  
東京国際アニメ祭 2017 秋（TIAF 2017 Autumn）
- ④ 日程： 平成29年10月24日（火）～10月26日（木）
- ⑤ 会場： サンシャインシティ コンベンションセンター他  
※TIMMは渋谷エクセルホテル東急を主会場に開催（10/23～25）

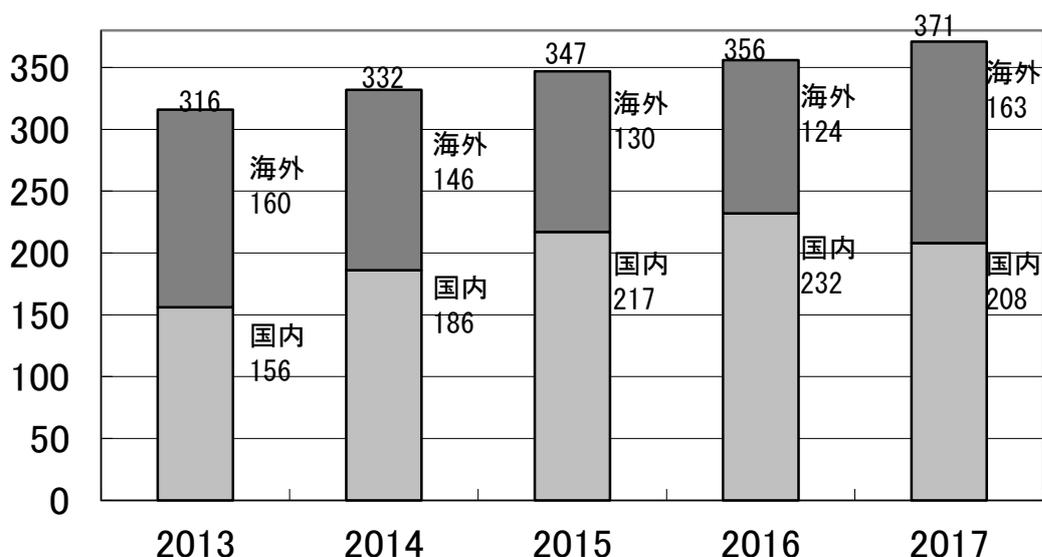
#### ■ TIFFCOM 2017 成果報告

TIFFCOM2017は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットであるTIMM（第14回国際ミュージックマーケット）、アニメ企業の出展によるTIAF（東京国際アニメ祭 2017 秋）、とともに「Japan Content Showcase」（JCS）のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOMとして過去最高となる371の出展団体が参加し、バイヤー登録も過去最高の1549人、商談件数も7798件と昨年対比115%と大きく伸長した。

#### [出展者の状況]

2017年度 出展団体数【 海外：163／国内：208 合計：371 】



## 国・地域別出展団体数

<b>アジア</b>	<b>128</b>	タイ	12	<b>北米</b>	<b>12</b>
カンボジア	14	ベトナム	1	カナダ	5
中国	13	<b>日本</b>	<b>208</b>	アメリカ	7
香港	5	<b>ヨーロッパ</b>	<b>13</b>	<b>南米</b>	<b>6</b>
インド	1	フランス	3	ブラジル	2
インドネシア	5	カザフスタン	2	チリ	4
韓国	48	コソボ	3	<b>中近東</b>	<b>4</b>
マレーシア	1	リトアニア	1	レバノン	1
フィリピン	3	ロシア	1	トルコ	2
シンガポール	1	スイス	1	アラブ首長国連邦	1
台湾	24	イギリス	2		

アジア 前年対比 124% (前年 103)、日本 前年対比 90% (前年 232)

ヨーロッパ 前年対比 144% (前年 9)、北米 前年対比 240% (前年 5)、

南米 前年 0、中近東 前年 0、アフリカ 前年対比 0% (前年 6)

## [バイヤーの状況]

■ 2017年度 : 1549人 ※ 2016年度より 10人増加

## 国・地域別バイヤー登録数

<b>アジア</b>	<b>760</b>	ベトナム	20	スウェーデン	4
ブルネイ	2	マカオ	5	イギリス	14
カンボジア	11	<b>日本</b>	<b>527</b>	<b>北米</b>	<b>95</b>
中国	143	<b>ヨーロッパ</b>	<b>131</b>	カナダ	5
香港	106	ベルギー	2	アメリカ	90
インド	18	クロアチア	1	<b>南米</b>	<b>23</b>
インドネシア	17	デンマーク	1	ブラジル	9
カザフスタン	3	エストニア	2	メキシコ	12
韓国	186	フィンランド	2	アルゼンチン	2
ラオス	1	フランス	42	<b>オセアニア</b>	<b>5</b>
マレーシア	30	ドイツ	23	オーストラリア	4
モンゴル	3	ハンガリー	1	ニュージーランド	1
ミャンマー	6	イタリア	8	<b>中近東</b>	<b>8</b>
ネパール	2	オランダ	3	イラン	3
フィリピン	23	ノルウェー	3	クウェート	1
シンガポール	31	ポーランド	2	レバノン	2
台湾	105	ロシア	16	トルコ	1
タイ	48	スペイン	7	アラブ首長国連邦	1

アジア 前年対比 106% (前年 720)、日本 前年対比 86% (前年 613)

ヨーロッパ 前年対比 149% (前年 88)、北米 113% (前年 84)、南米 144% (前年 16)

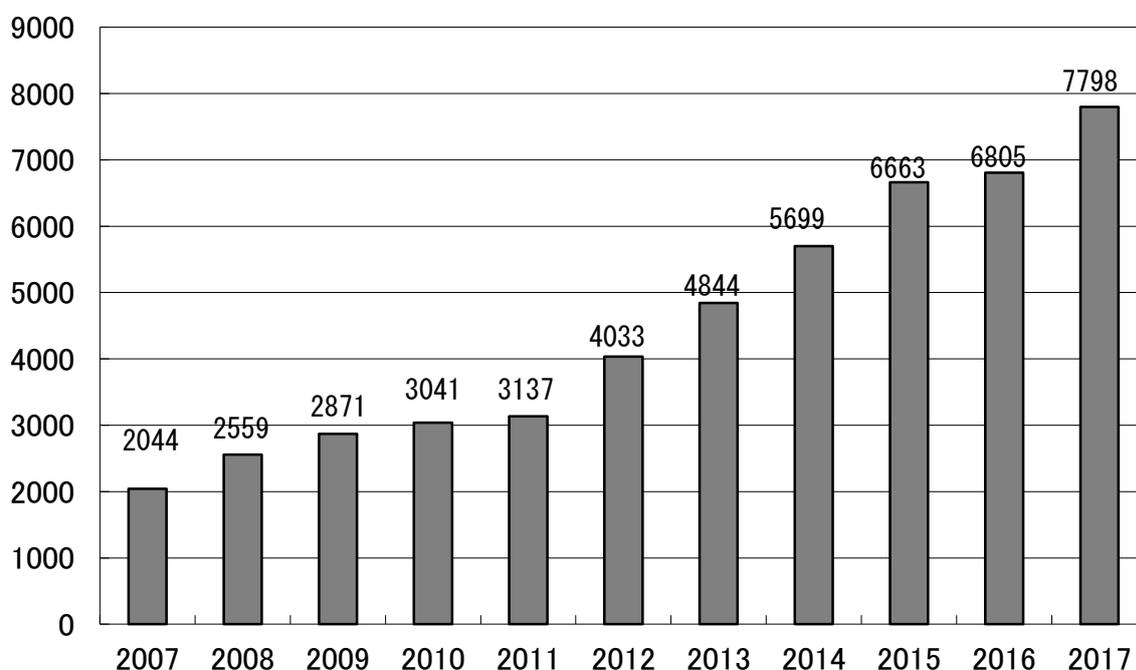
オセアニア 前年対比 71% (前年 7)、アフリカ 前年 7、中近東 200% (前年 4)

2017 年の特徴として、ヨーロッパのバイヤーが急増したことがあげられる。前年の約 1.5 倍という登録数を記録した。MIPCOM (開催地フランス) と日程が近いことからヨーロッパからの参加者は伸び悩んでいたが、TIFFCOM への期待の高さとジャパンコンテンツの求心力の強さを印象付けた。また、アジアからの参加者も年々伸長を続けており、一昨年の 2016 年は 593 名であったから、この 2 年間で 167 名も増加したことになる。

#### [商談結果の状況]

■ 2017 年度 : 総契約金額 : \$60,050,000

商談件数 : 7798 件



#### [JCS セミナーの状況]

全 27 セミナー

セミナー総来場者数 2,221 名 (2015 年 2,432 名 前年対比 91%)

主な TIFFCOM 関連セミナー

「JETRO・UNI JAPAN セミナー/ついに走り出した!動画配信における日本コンテンツの可能性」

「ボーダーレスに広がる国際共同製作の可能性」

「特集! ボーダーレス化する IP ビジネス最前線」

「フィリピンから学ぶ!ロケーション誘致と日本での応用法」

### 3. 国際振興支援事業

#### 【 国際交流 】

#### (1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

#### ■ 平成 29 年度支援実績

- ① 総採択数 98 件（平成 28 年度実績 96 件）
- ② 総申請件数 162 件（同上 119 件）
- ③ 支援総額 20,926,435 円（同上 23,673,431 円）

#### ■ 主な支援作品

- ・ カンヌ国際映画祭 『光』（河瀬直美監督） ★エキュメニカル審査員賞 受賞  
『散歩する侵略者』（黒沢清監督）  
『無限の住人』（三池崇史監督）  
『溶ける』（井樫彩監督）
- ・ アヌシー国際アニメーション映画祭 『BLAM!』（瀬下寛之監督）  
『Jungle Tax』（キム・ハケン監督）  
『夏のゲロは冬の肴』（冠木佐和子監督）★審査員賞 受賞
- ・ 上海国際映画祭 『恋とさよならとハワイ』（まつむらしんご監督）
- ・ カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭 『プールサイドマン』（渡辺紘文監督）
- ・ ロカルノ国際映画祭 『枝葉のこと』（二ノ宮隆太郎監督）
- ・ ヴェネチア国際映画祭 『三度目の殺人』（是枝裕和監督）  
『アウトレイジ 最終章』（北野武監督）  
『お茶漬の味』（小津安二郎監督）  
『泳ぎ過ぎた夜』（ダミアン・マニユヴェル、五十嵐耕平監督）
- ・ サン・セバスチャン国際映画祭 『ライオンは今夜死ぬ』（諏訪敦彦監督）
- ・ ベルリン国際映画祭 『リバーズ・エッジ』（行定勲監督） ★国際批評家連盟賞 受賞  
『予兆 散歩する侵略者』（黒沢清監督）  
『港町』（想田和弘監督）  
『ラーメン・テー』（エリック・クー監督）  
『Blue Wind Blows』（富名哲也監督）  
『あみこ』（山中瑤子監督）  
『わたしたちの家』（清原惟監督）

## (2) 日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

### ■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者に提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

- ① カンヌ国際映画祭マーケット（平成 29 年 5 月 17 日～26 日）  
\*JETRO との共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭マーケット（平成 29 年 6 月 13 日～16 日）  
・ 6 月 14 日（水）「Japan Reception」を開催。
- ③ トロント国際映画祭マーケット（平成 29 年 9 月 7 日～16 日）  
・ 9 月 11 日（月）「Japan Film Night」を開催。
- ④ ベルリン国際映画祭マーケット（平成 30 年 2 月 15 日～23 日）
- ⑤ 香港国際映画祭マーケット（平成 30 年 3 月 19 日～3 月 22 日）  
\*JETRO との共同出展  
・ 3 月 20 日（火）「Japan Networking Party」を開催。

## (3) 国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

### ■ 国際共同製作認定事業

#### ① 実施概要

- ・ 応募件数： 16 件（うち 3 件は更新）
- ・ 認定件数： 12 件
- ・ 文化庁支援採択件数： 9 件

#### ・ 文化庁支援採択企画

	区分	作品名	団体名	共同製作国
1	劇映画	イグアナ東京	(株) トリクスタ	ドイツ・トルコ
2	劇映画	桜の孤独	(株) アルタミラビリティーズ	イラン
3	劇映画	世界の果てまで（仮）	(有) ローテット・フィルムズ	ウズベキスタン
4	劇映画	南國	(有) 四面楚歌	台湾
5	劇映画	日本のシドニー	(株) オフィス・シロウス	フランス
6	劇映画	Have a Nice Trip（仮）	(株) ハーク	中国（香港）
7	劇映画	Vision	(有) 組画	フランス
8	劇映画	ファム・ファタール	(株) リキプロジエクト	フランス/スウェーデン
9	劇映画	Love in Tokyo	松竹（株）	インド

## ② 国際共同製作認定のための検討委員会の開催

- ・日 程： 平成 29 年 8 月 20 日（木）
- ・会 場： ユニジャパン会議室
- ・検討委員： 石川光久 プロダクション I.G 株式会社 代表取締役  
華頂尚隆 一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長  
一般社団法人映画産業団体連合会 事務局長  
小出真佐樹 株式会社ロボット プロデューサー  
富山省吾（委員長） 日本アカデミー賞協会 事務局長  
楨田寿文 特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO） 事務局次長  
南 雅彦 一般社団法人日本動画協会 常務理事  
株式会社ボンズ 代表取締役社長

## 【 情報発信 】

### （1）海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database（JFDB）の運営 （国際交流基金との共同事業／一部に特定非営利活動法人映像産業振興機構 からの業務委託）

日本で唯一の日英バイリンガルの日本映画オンラインデータベースの運営を、前年度に引き続き行った。平成 29 年に日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、453 本を新規掲載した。またメジャー映画マーケットでのセールス作品に特化したページ、“Market Look”を開設し、海外販売をサポートしている。

#### ■ 現在までの掲載作品数

公開年	掲載作品数
平成 13 年	7 本
平成 14 年	42 本
平成 15 年	119 本
平成 16 年	139 本
平成 17 年	117 本
平成 18 年	224 本
平成 19 年	292 本
平成 20 年	372 本
平成 21 年	358 本
平成 22 年	408 本
平成 23 年	368 本
平成 24 年	399 本
平成 25 年	356 本

平成 26 年	365 本
平成 27 年	269 本
平成 28 年	926 本
平成 29 年	453 本
合 計	5,214 本

## (2) 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布

(文化庁の委託事業)

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、平成 29 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

### ■ Japanese Film 2018 の概要

- ① 配布数：3,000 部
- ② 配布先：カンヌ、アヌシー、トロント、TIFFCOM（東京）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品：選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

## (3) 第 14 回 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品（文化記録映画部門）及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者（映画功労部門）に対する顕彰を行った。また、日本映画の製作者と観客をつなげるための活動を促進するべく、国内外の現状と展望を広く紹介することをテーマにした全国映画会議を実施した。

### ■ 文化庁映画賞

- ① 贈呈式
  - ・日程：平成 29 年 10 月 25 日（水）19 時 00 分～
  - ・会場：グランドハイアット東京「タラゴン」
- ② 文化庁映画賞 受賞記念上映会
  - ・日程：平成 29 年 10 月 28 日（土）11 時 00 分～
  - ・会場：神楽座

平成 29 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

- ・文化記録映画大賞  
『五島のトラさん』  
監督：大浦 勝 製作：テレビ長崎
- ・文化記録映画優秀賞  
『人生フルーツ』  
監督：伏原健之 製作：東海テレビ放送  
『まなぶ 通信制中学 60年の空白を越えて』  
監督：太田直子 製作：グループ現代

平成 29 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

- ・浅沼圭司（映画学、美学）
- ・上松盛明（特殊造形美術、操演技師）
- ・江川悦子（特殊メイク、特殊造形）
- ・かわなかのぶひろ（実践映画）
- ・鈴木美康（タイミング）
- ・高橋宏固（アニメーション撮影監督）
- ・田辺信道（映画録音）
- ・中本 哲（和楽監修）
- ・根岸 誠（テクニカルコーディネーター）
- ・古川雅士（アニメーション編集）
- ・森村幸子（スクリプター）
- ・矢部一男（映画照明）

■ 全国映画会議 シンポジウム-MOVIE CAMPUS-

- ・日程：平成 29 年 10 月 29 日（日）
- ・会場：神楽座

① 第 1 部 シンポジウム「時をかける僕らのクラシックス」

- ・岡島尚志（東京国立近代美術館フィルムセンター 参事[当時]）
- ・原田真人（映画監督/脚本家）
- ・宮島正弘（撮影監督）

モデレーター： 井上伸一郎（株式会社 KADOKAWA 代表取締役専務 執行役員）

② 第 2 部 上映『探偵物語』（4K デジタルリマスター版）

#### (4) 平成 29 年度 ASEAN 文化交流・協力事業（アニメーション・映画分野）の実施 (文化庁の委託事業)

アニメーション及び映画分野において、日本を代表する高い技術と経験を持った一流の製作者達を、タイ・マレーシアに派遣し、実践的なワークショップを行った。

##### 【マレーシア事業】（映画分野）

「デジタルシネマ撮影照明・編集ワークショップ in マレーシア」

- ・ 講師： 柳島克己（撮影監督／東京藝術大学教授）  
磯見俊裕（美術監督／東京藝術大学教授）  
宮島竜治（編集／東京藝術大学非常勤講師）  
浦田秀穂（撮影監督／LASALLE College of the Arts 教授）
- ・ 日程： 平成 29 年 11 月 17 日（金）～21 日（火）
- ・ 場所： Pinewood Iskandar Malaysia Studios（PIMS）
- ・ 参加者： 受講生： 16 名  
受講生の所属： University of the Philippines Film Institute（フィリピン）  
Wathann Film Institute（ミャンマー）  
Jakarta Institute of Arts（インドネシア）  
LASSALE College of the Arts（シンガポール）  
Ho Chi Minh City University of Theatre and Cinema（ベトナム）  
Sunway University（マレーシア）  
フリーランス（マレーシア）

##### 【タイ事業】（アニメーション分野）

「アニメーションブートキャンプ 2017 ASEAN」

- ・ 講師： 押山清高（アニメーター）  
りょーちも（アニメーター／アニメーション監督／イラストレーター）  
山田桃子（アニメーター／株式会社手塚プロダクション）
- ・ 日程： 平成 29 年 12 月 1 日（金）～3 日（日）
- ・ 場所： Silpakorn University, Wang Thapra Campus
- ・ 参加者： 人数： 31 人  
参加者の所属： Silpakorn University（シラパコーン大学： 17 名）  
Silpakorn University International College  
（シラパコーン大学インターナショナルカレッジ： 3 名）  
King Mongkut's University of Technology Thonburi  
（モンクット王工科大学トンブリー校： 3 名）  
King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang  
（モンクット王工科大学ラートクラバン校： 2 名）  
東京藝術大学 6 名

## 【 資金調達 】

### (1) 多様な資金調達に関する検証（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「我が国コンテンツの海外展開を図るための多様な資金調達手法に関する検証事業」として実施。コンテンツの海外展開促進を目的として、新たな資金調達を図ることができるような支援制度の構築及び検証、有識者による資金調達検討委員会の開催、報告書及び啓蒙用資料の作成等を行った。

#### ■支援制度の構築及び検証

選定された各案件における法務、会計及び税制等に関する課題に対し、事務局が弁護士や公認会計士、税理士といった専門家を配置し、支援体制を構築した。

##### ① 支援の対象となるコンテンツ制作案件

- ・ 一般投資家等から出資を募る純粋投資の方法
- ・ 海外事業者（コンテンツ事業者又は他産業の事業者）と共同製作を行う方法
- ・ その他我が国コンテンツの海外展開促進のための新たな資金調達方法

##### ② 支援対象案件

- ・ 原作者チームによる米国大手スタジオとの国際共同企画開発
- ・ 海外原作 IP に基づく英国スタジオとの国際共同企画開発
- ・ 国内原作 IP に基づく海外事業者から製作委員会への資金調達
- ・ マンガ原作映画のリメイクに基づく海外事業者からの資金調達
- ・ 第二種金融商品取引業登録とエクイティ・ファイナンス
- ・ 貸金業登録とデット・ファイナンス
- ・ 米国州政府によるタックス・クレジットや文化庁助成金によるセールス

##### ③ 専門家による支援内容

- ・ 資金調達スキームにおいて考えられるビークルの種類及びそれぞれにおける税務上のメリット / デメリットについてのアドバイス
- ・ 海外スタジオとの基本契約書締結における契約交渉に関する法務アドバイス
- ・ 海外の製作会社が日本の製作委員会への出資を行う際に、任意組合（新たな国際製作委員会の組成）によって行うスキームの提案と、その契約設計に関する法務支援
- ・ アジア各国から出資を募るための、国内流通会社を幹事会社とする LLP の組成に関する契約書の作成支援
- ・ 第二種金融商品取引業への登録を行うためのストラクチャリングをはじめ、申請プロセス、関東財務局との折衝、書類作成、ガバナンス体制整備など、金融商品取引業者としての資格の取得とその維持に必要なアドバイスや法務支援

- ・製作委員会へのデット出資において、契約の相手先がどうなるのかといった契約設計に関する法務支援
- ・タックス・クレジットを申請するために海外に設立したプロダクションを、国内製作プロダクションの子会社とするための法務支援
- ・現地プロダクション内部の予算管理を透明化するための製作経理担当として活動

## ■資金調達検討委員会

### ① 検討委員一覧

- ・山根 節（早稲田大学大学院 経営管理研究科 教授 / 公認会計士） ※座長
- ・上住 敬一（ビズアドバイザーズ株式会社 代表取締役 / 税理士 / 公認会計士）
- ・小倉 治（株式会社海外需要開拓支援機構 専務取締役 / 最高投資責任者）
- ・久保 真（ビッグロブ株式会社 執行役員常務）
- ・四宮 隆史（株式会社CRG 代表取締役 / E&R 総合法律会計事務所 代表弁護士）
- ・千代田 義央（PwC あらた有限責任監査法人 パートナー / 公認会計士）
- ・寺田 悠馬（株式会社CTB 代表取締役）
- ・中山 亮太郎（株式会社マクアケ 代表取締役）
- ・福原 秀己（プロデューサー）
- ・升本 喜郎（TMI 総合法律事務所 パートナー弁護士）

### ② 検討委員会の開催

#### ○ 第1回資金調達検討委員会

2018年1月17日（水） 13:00～15:00

- ・実際のコンテンツ製作案件の概要説明
- ・全体討議「プロデューサーと外部専門家との関係性について」

#### ○ 第2回資金調達検討委員会

2018年2月7日（水） 13:00～15:00

- ・全体討議「多様な資金調達手法の形成に関する阻害要因と解決方法」

#### ○ 第3回資金調達検討委員会

2018年3月1日（木） 13:00～15:00

- ・全体討議①「2020年に普及可能な資金調達手法」
- ・全体討議②「コンテンツ関連産業の将来」

## ■報告書及び啓蒙用資料の作成

具体的なコンテンツ製作案件とそこに対する専門家による支援を通じて得られた課題とその解決手法、及び資金調達検討委員会における議論から得られた知見等を整理して取りまとめたうえで、新たな資金調達を志す国内のコンテンツビジネス関係者に対して普及啓蒙できるような資料として報告書及びその概要版の作成を行った。

## 【 人材育成 】

### (1) 国際コンテンツビジネスプロデューサー育成（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「人材発掘育成・国際ネットワーク構築事業」として実施。国際的なコンテンツビジネスを手がける海外企業等における実務研修の実施、米国フィルムスクールにおける短期研修プログラムの実施、セミナーや連続講座の実施、ネットワーキングイベントの実施、人材育成に関連する調査等を行った。

#### ■海外企業実務研修

##### ① 実務研修実施先となる海外企業

- ・国際的なコンテンツビジネスに関連した業務を行っており、プロデューサーとして必要な実務経験を得ることができる海外のコンテンツビジネス関連企業や製作現場

##### ② 研修内容

- ・市場調査、マーケティング、プロモーション、脚本開発、映画製作、テレビ番組製作、デジタルコンテンツ製作、アニメーション製作といった、国際的なコンテンツビジネスに関連する実務に携わる研修

##### ③ 平成 29 年度研修実施先

- ・Lions Gate UK（作品の買い付けや販売、配給、マーケティング業務）1 名

#### ■短期研修プログラム

##### ① 米国 UCLA における短期研修プログラム「エンタテインメントビジネスの未来」

米国西海岸の名門ビジネススクールである UCLA Anderson School of Management（UCLA Anderson）において、コンテンツ教育を手がける機関である Center for Management of Enterprise in Media, Entertainment and Sports（Center for MEMES）の協力により、コンテンツとテクノロジーの融合に関する米国における現状を知るとともに、将来のエンタテインメントビジネスについて考える 1 週間の合宿型の集中講座を米国ロサンゼルスにおいて実施

- ・日 程：2018 年 1 月 29 日（月）～2 月 2 日（金）
- ・会 場：University of California, Los Angeles（UCLA）（米国ロサンゼルス）
- ・参加者：20 人

#### ■セミナー及び連続講座

##### ① 配信ビジネスで変わるハリウッドのアニメーション製作

ハリウッドを中心とした米国において、インターネット配信の登場により多様化するコンテンツビジネスの変化がアニメーション製作に与える影響について解説するセミナーを実施

- ・日 程：2017年6月16日（金） 16：00～18：00
- ・会 場：コンgresクエア日本橋 ホールB  
（東京都中央区日本橋 1-3-13 東京建物日本橋ビル 2F）
- ・参加者：172人

② 世界展開を目指すアニメーションの企画開発手法

米国アカデミー協会において、短編映画・長編アニメーション両部門の部門長を務める Bill Kroyer 氏を講師に迎え、チームで企画開発に取り組むハリウッド流のプロセスについて実践的に学ぶセミナーを実施

- ・日 程：2017年6月18日（日） 15：00～17：30
- ・会 場：AP 新橋虎ノ門 会議室 B （東京都港区西新橋 1-6-15 NS 虎ノ門ビル）
- ・参加者：29人

③ コンテンツビジネスにおける資金調達と金融商品取引法

金融庁から、映画製作等のコンテンツ事業における資金調達時の金融商品取引法の適用関係を明確化するための「コンテンツ事業に関する Q&A」が取りまとめて公表されたことに合わせて、資金調達における法制度の理解を深め、柔軟な資金調達手法を推進することを目的として、資金調達と金融商品取引法の関係について解説するセミナーを実施

- ・日 程：2017年7月18日（火） 13：30～15：00
- ・会 場：経済産業省 本館 B2F 地下講堂 （東京都千代田区霞が関 1-3-1）
- ・参加者：406人

④ 米国トップビジネススクールが教える最先端のテクノロジーとマーケティング

米国の名門ビジネススクール UCLA Anderson のコンテンツ教育機関である Center for MEMES からゲストを迎え、近年のテクノロジーの進化が、ビジネスやマーケティングにどのような影響を与えているのかを中心に、海外のエンタテインメント産業の最新動向について語ってもらうセミナーを実施

- ・日 程：2017年10月24日（火） 10：00～12：00
- ・会 場：サンシャインシティ コンベンションセンター JCS セミナールーム 1  
（東京都豊島区東池袋 3-1）
- ・参加者：115人

⑤ 海外展開を推進するためのチームデザイン戦略

国際的なコンテンツビジネスに関わる弁護士、税理士、出資者など、プロデューサーとともにプロジェクトを推進する方々をパネリストに迎え、コンテンツの海外展開に必要なチーム編成に焦点を当て、チームデザイン戦略について考えるセミナーを実施

- ・日 程：2017年10月26日（木） 13：00～14：30
- ・会 場：サンシャインシティ コンベンションセンター JCS セミナールーム 3  
（東京都豊島区東池袋 3-1）

・参加者：81人

#### ⑥ 国際コンテンツ制作におけるビジネスプラン策定講座

海外展開を視野に入れたコンテンツ制作を行う際に必要となる制作費の見積もりから資金調達、回収、分配に至る一連のプロセスを理解し、それらを適切に組み合わせたビジネスプランを立案できるようになることを目標とした全5回の連続講座を実施

・日程：2017年12月16日（土）、2018年1月13日（土）、2月17日（土）、  
3月3日（土）、3月17日（土）

・会場：1～4回/AP新橋虎ノ門会議室B（東京都港区西新橋1-6-15 NS虎ノ門ビル）  
第5回 /ワテラスコモンホール（東京都千代田区神田淡路町2-101）

・参加者：71人

### ■人材育成調査

#### ① コンテンツビジネスに関する調査

米国におけるコンテンツ産業振興政策とKPIに関する調査、米国東海岸のフィルムスクール卒業生のキャリアパス調査、国際的な俳優養成機関に関する概要調査という3つの調査を実施

#### ② プロデューサーに有益な世界のイベント情報に関する調査

映画に限らず、テレビ、ゲーム、ネット配信等も含めた映像コンテンツ制作を手がけるプロデューサーにとって有益となる、企画開発、資金調達、配給・流通先開拓、ネットワーキング等に関連した国際的なイベントについて調査を実施

### (2) 「第39回 PFF」の共催（川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第39回 PFF（ぴあフィルムフェスティバル）」に共同主催として参画した。

#### ■ 開催概要

- ・会期：2017年9月16日（土）～29日（金）＊月曜日休館
- ・会場：東京国立近代美術館フィルムセンター

#### ■ 最終審査員

- ・渡部 眞（撮影監督）
- ・李 相日（映画監督）
- ・永井拓郎（映画プロデューサー）
- ・市川実日子（女優）
- ・横浜聡子（映画監督）

## ■ 受賞結果

- ・ グランプリ： 『わたしたちの家』（清原 惟、24 歳）
- ・ 準グランプリ： 『子どものおもちゃ』（松浦真一、27 歳）
- ・ 審査員特別賞： 『同じ月はみえない』（杉本大地、23 歳）  
『狐のバラッド』（藤田千秋、26 歳）  
『沈没家族』（加納 土、22 歳）
- ・ 観客賞： 『あみこ』（山中瑶子、20 歳）
- ・ エンタテインメント賞（ホリプロ賞）： 『春みたいだ』（シガヤダイスケ、22 歳）
- ・ ジェムストーン賞（日活賞）： 『赤色彗星倶楽部』（武井佑吏、24 歳）
- ・ 映画ファン賞（ぴあ映画生活賞）： 『赤色彗星倶楽部』

## ■ 東京国際映画祭での提携企画

- ・ PFF アワード 2017 受賞作品上映  
上記グランプリ作品を上映、監督が観客との質疑応答に参加した。
- ・ 海外映画祭への出品
  - 『わたしたちの家』 第 68 回ベルリン国際映画祭  
第 42 回香港国際映画祭
  - 『あみこ』 第 68 回ベルリン国際映画祭  
第 42 回香港国際映画祭